

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.113

< 目次 >

【行事案内】

- ★ 第19回子供環境研究発表会 1
- ★ 自然エネルギー先進地視察 2
- ★ 第27回発表会 発表参加募集 3

【報告】

- ★ 第3回環境講座 4
- ★ 第4回環境講座 5
- ★ 第12回いわき子ども環境賞コンクール表彰式 6
- ★ NPOいわき環境研究室 7
- ★ いわき自然エネルギー研究会 8

【リレーエッセイ】

- ★ 苔の香り 10

【行事案内】

第19回子供環境研究発表会のご案内

当会恒例の子供環境研究発表会を下記のとおり開催いたします。9月にいわき・ら・ら・ミュウで開催された、市内小学校児童の夏休み理科自由研究作品の中から環境関連の作品を選出させていただきました。当日は、児童の皆さんからポスター形式で発表していただく予定です。

当会会員のみならず多くの皆様方に、是非小学生の皆さんの研究発表をご覧くださいよう、ご案内申し上げます。

記

日時 平成27年11月15(日) 10:00～12:30

場所 いわき市フラワーセンター

進行次第

開会 10:00 /会長挨拶

ポスター発表

●前半の部 10:05～11:00 (5発表)

発表タイム 10:05～10:30 (一人5分×5人), 質疑応答タイム 10:30～11:00

「ビオトープの研究」	御厩小学校3年	立花里紗さん
「ピンクのあさがおさかせたい」	泉北小学校3年	永島翠織さん
「落花生のフシギ調べ」	平第一小学校4年	飯田 賢さん
「保れいこう果があるのはどれだ」	泉小学校4年	飯塚愛菜さん
「二ッ箭山登山道の放射線調査」	平第一小学校5年	塩崎悠太郎さん

休憩 11:00～11:15

●後半の部 11:15～12:10 (5発表)

発表タイム 11:15～11:40 (一人5分×5人), 質疑応答タイム 11:40～12:10

「植物の受精と糖の関係」	中央台北小学校5年	草野ひな美さん
「花を長持ちさせるには？」	大浦小学校5年	鈴木琴音さん
「家の周りのビル風」	平第二小学校6年	引地 慶さん
「ふけ！飛ばせ！風パワー」	四倉小学校6年	千葉悟史さん
「朝顔の秘密に迫れ！PART2」	菊田小学校6年	富樫七海さん

講評/表彰 12:10～12:30

閉会 12:30

※この発表会で使用されたポスターは、11月15日(日)から11月23日(月)の期間、同会場にて一般展示されます。

【行事案内】

自然エネルギー先進地視察

自然エネルギー研究会では先進地視察を下記のとおり計画しましたので、会員及び関係団体の会員の皆様がふるって参加くださるようお願いいたします。

記

日時 平成27年11月29日(日)9時30分～16時30分

集合場所・時刻 福島高専駐車場・9時30分

場所 那須野ヶ原用水ウオーターパーク 小水力発電設備

〒329-2807 栃木県那須塩原市接骨木 447-8

非電化工房

〒329-3222 栃木県那須郡那須町寺子丙 2783-22

参加人員 25名

参加費 1,000円(保険料及び昼食費を含む)

交通手段 貸し切りバス

連絡先 参加を希望される方は11月26日(木)までに平川(携帯電話 090-9152-6701)、橋本(携帯電話 090-8788-5763)までご連絡をお願いします。

【行事案内】

第27回発表会 発表参加募集のご案内

当会では、いわきの環境に関する情報交換や意見発表の場として毎年発表会を開催しています。

今年度は、自然環境に関する調査研究事例や環境保全技術や環境保全活動の事例発表等など、身近な環境に関連する話題ならどのような内容でも結構です。

つきましては、下記の内容で発表会を予定していますので、どうか奮って発表参加をお願いいたします。

記

1.日時 平成28年1月24日(日) 13:30~17:00

2.場所 福島工業高等専門学校 大会議室

3.発表内容

いわき地域の自然環境や環境保全対策などに関する調査や研究の発表を募集します。

4.発表方法等

○発表の形式は、パワーポイント等を使用した口頭発表です。

○発表時間は1件につき20~30分間として、事務局が発表者と相談の上決定します。

○発表要旨集に掲載する原稿を、A4サイズで4ページ以内にまとめていただきます。

5.発表参加申し込み等

○発表申し込み〆切:12月11日(金) 事務局発表会担当まで発表者名とタイトルをご連絡ください。

○要旨集原稿提出〆切:平成28年1月15日(金) 原稿は電子ファイルでご提出ください。

6.問合せ・申込み先

いわき地域環境科学会事務局 (発表会担当;原田)

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30 福島工業高等専門学校 建設環境工学科

Tel.0246-46-0833, Fax.0246-46-0843, E-mail;harada@fukushima-nct.ac.jp

【報告】

第3回環境講座

9月19日(土)10:00から小名浜玉川団地の北に広がる金成里山公園一岩出の郷で第3回環境講座が行われました。

講師は岩出の郷で長年にわたり里山づくりに関わり、10年前にその活動の成果をイクオール19号で「冬季湛水水田で繁殖する両生類の観察」のタイトルで投稿された津崎 順さんです。

当日は晴れて野外での環境講座にはもってこいの天気でした。

玉川団地の北側の駐車場に参加者7名が集合し、里山へ向かって歩き出しました。はじめは左に里山が迫り右手に畑がありいろいろの野菜がつくられているのが目につきます。少し歩くと右手に溜池が見えてきます。ため池はこの時期水がほとんどなく底が出ていました。左手の休憩場所の脇では、この里山で活動しているメンバーの人達が収穫し、乾燥した小豆のさやをむく作業をしているのが見えます。

この溜池の左を回り込んだところの左側の山際に津崎さんが10年前に書いた田んぼがあります。山からの水をいったん小さな池で貯めそれからその下の田んぼに入れるようになっているのですが、その浅い池をのぞいてみるといろいろな水生生物が生息しているのがわかります。

休憩場所で津崎さんの話を聞きましたが、その話の中で特に心に残ったのが、里山を構成する要素の話でした。例えば池、湿地、田んぼ、畑、茅場、草原、林、山などです。

この岩出の郷はこれらの要素をすべて持っているエリアで、それがモザイク状にかつ連続につながっているため、それぞれの要素に生息している生物と、その隣の要素に生息している生物が相互に関わりながらバランスし、多様性がある環境が成立しているとだと得心できます。

その中でのトウキョウサンショウウオ、アカガエルのその後の生息数の推移等についても各要素に生息する生物の数、またそれを規定する要素の大きさ等が適当な規模であることから詳細な考察ができる優れた研究調査のためのフィールドでもあると実感しました。

(佐藤 記)

【報告】

第4回環境講座

10月25日の日曜日に9時30分から13時の時間帯で、4回目の環境講座が開催されました。テーマは「いわき市南部の植物について」、勿来町在住の榎田正行先生を講師に迎え、10名の会員が田人町井戸沢地区の植物観察を行いました。以前環境科学会では、四時川溪谷の観察会などを行ってきましたが東日本大震災後、いわき南部での観察会は行っていませんでしたので、今回は久しぶりでした。

当初場所としては、再び四時川溪谷という案もありましたが、地震の被害などにより立ち入れない場所があり、同じ田人町の井戸沢地区が選定されました。井戸沢地区は鮫川中流域の侵食により形成されたV字谷の西岸であり、日当たりはよく、沢山の杉が植林されている場所です。このような地形的特徴によりいわき市でも最も温暖なこの地区では、分布北限の植物が見られます。今回は、まず林道沿いに歩き、途中から杉林に入り、その後再び林道に出て出発地点に戻るというルートで植物を見て歩きました。

林道沿いは、リョウメンシダなど多くの種類のシダ植物が生育し、その間にフユイチゴがかわいらしい赤い実を付け始めているという光景が印象的でした。榎田先生からは、シダの種類が多いということは他の植物相が多いということにつながるという説明がありました。また、イノシシが掘り起こした痕や通り道についても説明があり、今日本全国で増えているイノシシの生息実態を目の当たりにしました。

杉林の中に入ると、風が無く温暖な気候を肌で感じることができました。杉林の間、ところどころに温暖な気候を好むシラカシ、スダジイ、シロダモの幼木が育っていることについて説明がありました。また、チャ（ツバキと似るが控えめな白い花）が見られることにも説明があり、人里が近く人間生活と結びついている林を実感しました。

観察会の最後には、榎田先生から孢子葉をもつシダ植物の紹介、ナギナタコウジュ、シュウブソウ、ダイコンソウの紹介、林道沿いに多いミズヒキとキンミズヒキの違い、ツルリンドウとリンドウの違い、ミヤマイラクサとカラムシの見分け方のお話がありました。参加者一同は、いわき市南部に分布する北限の植物を観察できただけでなく、植物観察のポイントも詳しく学ぶことができ、大変貴重な時間を過ごしました。



【報告】

第 12 回いわき子ども環境賞コンクール表彰式

「いわき子ども環境賞コンクール」表彰式は、10月18日（日）にクリンピーの家で開催された「リサイクルフェア」に先立ち行われました。

このコンクールは、当会がいわき市といわき市教育委員会の共催のもと、市内の小中学生を対象に環境保全をテーマとした標語を作ることを通して、身近な環境に関心を持ち環境に優しい暮らしを広げてほしいという目的で行われています。当日は最優秀賞を始めとした14作品の表彰が行われました。

作品は、夏休みの課題の一つとして募集が行われ、過去最高だった昨年を上回る606名、920作品の応募がありました。審査は、当会の諸橋会長、平川副会長、大野第一小学校の西郡教諭、内郷第一中学校の津田教諭、さらにいわき市生活環境部の5人により行われました。

表彰式では、諸橋会長が受賞を称えるとともに今後も学校や家庭で環境に優しい暮らしを広げていってほしい旨激励をし、受賞者に賞状と副賞の図書券が授与されました。

入賞作品は市役所のロビーに掲示される予定で、今後いわき市の環境啓発の場での活用が期待されます。

最優秀賞

「ゴミ」じゃない まだまだ使える 「資源」です 桶売中学校1年 根本 真佑

優秀賞

だいしぜん くうきとみずに ありがとう	中央台南小学校	1年	鈴木 啓太
つめこもう ぼくらのみらい エコバック	郷ヶ丘小学校	2年	鈴木 侑夢
温暖化 ぼくらが止める エコ魂	小名浜第一小学校	5年	今泉 栞花
ゴミ拾い 心も道も ピッカピカ	好間第一小学校	6年	北川 蒼衣
未来へと 青い地球を プレゼント	好間第一小学校	6年	村山 瑠菜
見捨てない ぼくらが生まれた この地球	湯本第三中学校	2年	和田 拓都

佳作

食べのこし えいようへって ゴミふえる	宮小学校	2年	根本 実果
のこそうよ きれいな水と 緑の大地	川部小学校	4年	小野 凜佳
リサイクル また会う日まで ありがとう	好間第一小学校	6年	片野 萌
ムダな水 止める心は 止めないで	湯本第三中学校	1年	工藤 麻穂
森守る 未来も守る 決めたから	植田東中学校	2年	青木 さくら
捨てないで 夢と希望と そのゴミを	湯本第三中学校	2年	泉 りな
温暖化 地球を冷やそう 省エネで	玉川中学校	2年	渡邊 蓮斗

◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成27年9月1日～10月31日)

【1】鮫川流域対象の水生物等の調査が一段落しました

いわき市の「平成27年度まちづくり担い手育成支援事業」として、当NPOでは、昨年度に引き続き委託されました(事業名:市内河川の水生物の生息状況等の調査)。昨年度は、夏井川水系を対象に実施しました。今年度は、市内第2の流域面積を持つ鮫川流域を対象に調査を実施しました。これまで、6月～10月までの5か月間、4箇所(調査地点は図-1)の定点では、毎月一回、他の測定点3箇所では、期間中一回調査を実施しました(調査地点は図-1)。

測定項目は、現地で、12項目(水生物採取・同定、水温・透視度・COD(パケットテスト)・におい・導電率・pH・代表流速・水深・川幅・河床の様子その他、調査地点近傍の写真・スケッチ)について測定した他、検水を福島高専に持ち帰って、法定法によるCOD、BOD等の測定をしました。また、パルシステム福島さんのご協力を戴き、測定点の水際の土砂を採取し放射能濃度も測定しました。結果の整理はこれからですが、流域内の小学生等の学習の参考になるようまとめていきたいと思っております。



図-1 調査地点概略図

【報告】

「いわき自然エネルギー研究会」の動き (第6報)

【1】平第四小学校 学習支援

昨年度より、平第四小学校のエネルギー学習の支援活動を行っています。今年度も6年生を対象に3回の予定で活動しています。すでに1回目と2回目が終了していますので、ここではその2回分の内容を報告します。

1回目は10月6日(火)の午前中に平第四小学校の図工室にて、実習と講義を行いました。まず前半の実習では、4つのテーブルに分かれて、太陽光発電、水力発電、風力発電についてテーブル1つずつでおもちゃや小型の発電機などを用いて体験できるブースを設け、もう1つのテーブルには発電そのものの仕組み(電磁誘導)を体験できるブースを設けました。1つのテーブルで8分程度それぞれの実習を行い、児童たちは興味をもって参加しているようでした。その後、福島高専専攻科特命教授の樋口登先生と同電気工学科准教授の山本敏和先生から、自然エネルギーや発電などについての解説があり、こちらも児童たちはしっかり話を聞いていました。



2回目は10月15日(木)の午前から午後にかけて、平下平窪の諏訪神社に昨年度設置した自然エネルギー発電施設の見学を中心とした学習でした。今回は当研究会スタッフのほか、福島高専電気工学科5年生4名も補助スタッフとして、児童たちに自然エネルギーによる発電の概要や発電施設の説明などで活躍してくれました。また、人力で発電を行う装置、太陽光や風を受けて動くおもちゃなども登場し、学校を離れての学習ということもあって児童たちは喜んで参加していました。補助スタッフの学生には、年齢が近いということもあり児童たちから色々な質問が出ていました。当日は天候にも恵まれ、予定通りの授業を実施できました。

次回は11月10日(火)に行われる予定です。



【2】ESD事業（持続可能な地域づくりを担う人材育成事業）

本年度から環境省が進めているESDの実施団体として自然エネルギーに関する領域の実証をすることになりました。

【リレーエッセイ】



苔の香り

柴田 公彦 (会員)

8月に青森県と秋田県にまたがる十和田湖周辺や十和田湖から流れ出る奥入瀬川沿いをサイクリングしてきた。特に奥入瀬溪流の景観は見事なもので、特に、点在する岩々やテーブルまでも「苔」に覆われている様子は幻想的・神秘的であった。奥入瀬溪流たどりつくまでも自転車であったため疲れていたが、深呼吸すれば疲れは一気に吹き飛んだ。

9月には京都旅行へ行き、東山、嵐山などの寺院を見学してきた。京都の空気は特に澄んでいるように感じる。京都は寺院が多く、そこに木々が多いからだろうか。寺院の庭を散歩していても清々しく感じる。そこにも地面や木々を覆うように「苔」が生えていた。

その後調べてみると、奥入瀬溪流流域と京都東山（京都市東山山麓）のどちらも日本蘇苔類学会により「日本の貴重なコケの森」に選定されていた。青々とした美しい苔をみることもできたのも納得できる。

話は変わるが、最近、調香について勉強している人から話を聞く機会があった。自分がイメージする香水を、様々な香料を混ぜ合わせることで作るらしい。香料にはいろいろな種類があり、木のような香りをウッディ woody、果実のような香りをフルーティ fruity というらしいが、なんと「苔(moss)の香り」モッシー mossy という分類もあるそうだ。しかし苔の香りといわれてもぴんとこない。草のような香りと思ったが、緑草、葉などの香りはグリーン green というらしい。モッシー系の香料を香水に入れると高級感、つや、深みを与えることができるとのこと。そんな話を聞いて、実際の苔の放つ香り成分と私たちが溪流や寺院で清々しく感じることには何か関係があるのだろうか...などと妄想していると、苔の香りを確かめたい、また苔に癒やされたいと思う。じっくり腰を下ろして苔を観察してみると様々なかわいらしい形をしており、目でも楽しむことができる。最近、若い女性の間で苔ブームのようで、そのような女性を苔ガールというらしい。苔に魅了されるその気持ちがよく分かる。いわきにも背戸峨廊をはじめとして苔生された場所が多々あるようなので巡ってみたいと考えている。

2015. 11.1.

No.113

発行：いわき地域環境科学会
福島工業高等専門学校

地域環境テクノセンター内

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org